

御子を与えられた神

(ヨハネ3・16～21)

一、だれが語ったことばか

3章16節の「**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**」は、だれが語ったことばなのでしょうか。実はこの時点で、翻訳によって理解が異なることが分かります。私共が使っている新改訳2017は、前の節の15節の終わりに力ギ括弧があります。この力ギ括弧はどこから始まっているのかと申しますと、10節からです。すなわち新改訳2017は、10節から15節までを主イエスが語られたことばとして受け止めていることが分かります。その前の訳の新改訳改訂第3版、そして新改訳旧版も同じです。

ところが新共同訳は、15節の終わりに力ギ括弧がなく、21節の終わりに力ギ括弧が付いています。すなわち新共同訳は、10節から21節までを、主イエスが語られたことばとして受け止めていることが分かります。しかし3章16節は、内容からしても、主イエスご自身が語られたことばというよりも、ヨハネが属した教会のことばとして読む方が自然です。

二、だれに語られたことばか

続いて、3章16節以降は、だれに対して語られたことばなのかを見てまいります。16節は、ここで改行されているので新しい内容が始まると思っただけ間違いです。16節は、原文では「なせなら」「というのは」を意味する接続詞がありますので、その前のことばとながっていることが分かります。

では、3章15節までは、何が書かれているのでしょうか。ご存じのように、パリスイ派のユダヤ人の教師(ラビ)で、ユダヤ教の最高法院の議員であったニコデモがイエスさまのところを訪ねて来て、対話をしたことが書かれています。主イエスはニコデモに言われました。3章10節です。「**イエスは答えられた。『あなたはイスラエルの教師なのに、そのことが分からないのですか。』**」と。ところが次の節の11節になると、様子が変わってまいります。「**まことに、まことに、あなたに言います。』**とあります。ここまでは、すんなり読むことができますが、その続きをよく注意してご覧ください。「**わたしたちは知っていることを話し、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れません。』**とあります。前後関係からするなら、ここで語られているのはイエスさまです。なのに、「**わたしたちは知っていることを話し、見た**

ことを証しているのに。』になっっています。「**わたしたち。』**とは、だれでしょうか。主イエスとヨハネが所属する教会です。すなわち、主イエスが語られたことばが、途中から、主イエスとヨハネが所属する教会が語っていることばになっっているのです。さらに、11節の続きに「**あなたがたはわたしたちの証しを受け入れません。』**と、相手が「**あなた。』**すなわちニコデモから、「**あなたがた。』**に変わっっています。「**あなたがた。』**とは、だれなのでしょう。ニコデモを始めとする、キリスト教会の信仰を認めないユダヤ人たちです。こうして12節も、「**あなたがた。』**になっっています。「**わたしはあなたがたに地上のことを話しましたが、あなたがたは信じません。それなら、天上のことを話して、どうして信じるのでしょうか。』**と。すなわち、ニコデモを始めとする、キリスト教会を認めないユダヤ人たちに対して語られていきます。そういうわけで3章16節は、イエスをメシア(キリスト)と信じないユダヤ人たちに語っている、ヨハネが属する教会のことばである、という背景が見えてまいります。

三、信じない人々へのことば

そういうわけで、3章16節は、キリストを信じない者たちに対して、聖霊が教会を通して語っていることばなのです。「**世。』**とは、キリストを信じない

人々です。そういう、神に反抗する人々のために神は、ひとり子である御子イエス・キリストをお与えになりました。ちなみに、「**お与えになった。』**ということばですが、別の聖句においては、「**引き渡された。』**とも訳されていることばです。神は、ひとり子であり御子であるキリストを、ご自身に敵対する者のためにお与えになった、引き渡された、という意味です。

これだけのものが示されているわけですから、神が与えられた、すなわち引き渡された御子イエス・キリストを信じないなら、神に背を向ける意思のゆえにあなたの罪ははつきりしている、というのが18節の語るところです。「**御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれています。神のひとり子の名を信じなかったからである。』**と。この聖句だけを聞くと、「**信じるか、信じないか。』**と迫られているようで、やや性急(「せっかち」)に感じられるかも知れません。ですが、16節から21節で語られていることばを語ったのはだれか。また、だれに対して語られているのかを知るなら、決して性急ではないことが分かります。

ここに語られたことばを語るよう促したのは聖霊であり、実際に語ったのはヨハネが属する教会です。そして、このことばが語られたのは、まずキリストを信じない人々に対してでした。